

学級活動指導案

1 題材名 「ほめ言葉シャワー」

2 学習指導要領との関連

(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること。

(ウ) 望ましい人間関係の育成

に関連する。家庭や地域社会などにおける子どもの人間関係の希薄化に伴う対人関係の在り方の未熟さを解消するため、好ましい人間関係の醸成に努めることに関連する。

3 目標

(1) 心をこめて、相手へほめ言葉を伝える。

(2) ほめ言葉を伝えてもらったときの心地よさを味わう。

4 獲得目標とするスキル

(1) 「ほめ言葉のかけかた」

ほめ言葉を「相手のいいところ + 気持ちを表す言葉」で伝えることができる。

(2) 「心を伝える話し方」

相手に近づく 相手の顔を見る 相手に聞こえる声で言う 笑顔で言う

5 題材について

〔1〕設定の理由

子どもたちは互いに、相手のいいところを見つけてほめることがある。しかし話し方のスキルの不足により、せっかくのほめ言葉が相手の心へ届かなかつたり、相手がほめてもらったと感じられなかつたりすることがある。

教師は日頃子どもたちに話し方や言葉のかけ方を指導しているが、その都度、短時間で行われる指導ではなく、1時間の授業のなかで子どもたちに体験を通して学ばせていく意味は大きい。教師の指導を頭で理解するのではなく、自分で体験して身体で行動の仕方を知り、心地よさを味わい、心と身体で子どもたちが自ら行動の仕方を獲得できるようにする。

〔2〕活動内容について

(1) 「いいところカード」の活用

ほめ言葉を伝えるといっても急には思いつかない。そこで事前に実施した「いいところカード」を活用し、それを「相手のいいところ + 気持ちを表す言

葉」に書きかえることでほめ言葉のなりたちを理解させる。また自分へのメッセージを読むことにより、ほめられることの心地よさを味わわせるために活用する。

(2) リハーサルとフィードバック

スキル定着のためのリハーサル

グループで一人を一回ほめただけで終了してしまっただけでは十分な練習とはいえない。時間内であれば、繰り返し練習できるようにする。

一人ほめるごとにフィードバック

グループで一人をほめるごとにフィードバックする。二つの理由がある。一つ目は、このフィードバックはスキル面に重点を置き、スキルの定着を図るためのものである。「相手により近かった」「相手の目を覗き込んで伝えていた」「相手の肩にそっとふれて伝えていた」など、次の人をほめる際、そこでフィードバックされたことを少しでも取り入れ、工夫して実施できるようにする。二つ目は、リハーサルとフィードバックを区切って行くと、グループ全員へほめ言葉を伝え終わった後、活動の様子を一人ずつ思い出してフィードバックすることになり、記憶が曖昧になってしまうと考えたためでもある。自分の行動をその場で振り返り、よりよく修正できるようにするために、一人ずつフィードバックしていく。

まとめのフィードバック

授業の最後に行うフィードバックは、授業全体を通して気付いたことや感じたことの振り返りをする。スキル面はもちろんだが、ここで心情面にふれるものがあれば取り上げて全体で共有していく。

6 本時について

〔1〕ねらい

(1) ほめ言葉を「相手のいいところ + 気持ちを表す言葉」の言い方に書きかえることができる。

(2) 心を伝える話し方の4つの観点を意識して、相手にほめ言葉を伝えることができる。

〔2〕展開

活 動 内 容	* 教師の支援 評価
<p>インストラクション</p> <p>1 (1) 心を伝える話し方の学習をすることを 知る。 事前に書いた「いいところカード」を 読んで、ほめ言葉を言われると、あ たたかい気持ちになることを知る。</p> <p>(2) ほめ言葉のなりたちを知り、「いい ところカード」を書きかえる。 ほめ言葉に気持ちを表す言葉を添え ることを知る。 「ほめ言葉 = 相手のいいところ + 気持ちを表す言葉」 グループの児童について「いいところ カード」の内容をほめ言葉に書きかえ る。</p> <p>モデリング</p> <p>2 モデルを見て、心を伝える話し方 を知る。 心を伝える話し方を知る。 相手に近づく。相手の顔を見る。 相手に聞こえる声で言う。笑顔で 言う。 教師の心を伝える話し方のモデル を見てやり方を理解する。【モデ リング】</p> <p>リハーサル・フィードバック</p> <p>3 心を伝える話し方を練習し、振 り返る。 一人の児童に対してグループの他 の児童が心を伝える話し方でほめ 言葉を伝える。 フィードバックでは、ほめ言葉を 伝えた児童が4つの観点について 振り返る。 教師が見た児童の工夫やよさを 全体へ伝える。</p> <p>フィードバック</p> <p>4 学習を振り返る。 振り返り用紙を書く。 感想を発表する。</p>	<p>* ほめ言葉で心や体があたたか くなることに気付くよう、助言す る。</p> <p>* 気持ちを表す言葉の例を挙げて 示す。(うれしいよ、すごいね 等) ほめ言葉に書きかえることが できたか。</p> <p>* 児童が確認できるように心を 伝える話し方の4つの観点を黒 板に掲示する。</p> <p>* 非言語の部分を意識させるよ う、教師はよい例と悪い例のモ デルを大きさに示す。</p> <p>* グループをまわり、よい言葉 かけをほめたり「～するとっと よくなるね」などの肯定的な言 い方で修正したりする。 「心に伝える話し方」の4つの 観点を意識して練習できたか。</p> <p>* スキル面だけでなく心情面 にもふれた感想を取り上げ、全 体へ広げる。 * これからの生活のなかでも、 ほめ言葉を実践できるよう促 す。</p>

〔 3 〕 評価

- (1) ほめ言葉を「相手のいいところ + 気持ちを表す言葉」の言い方に書きかえることができたか。
- (2) 心を伝える話し方の 4 つの観点を意識して、相手にほめ言葉を伝えることができたか。